



東京都立鹿本学園 学校通信 令和7年10月22

東京都立鹿本学園

校長 堀江 浩子

東京都江戸川区本一色2-24-11

電話 03-3653-7355

学びの虹

一方(いっぽう)で・・・

文章を書く際、その人のクセ(癖)があらわれます。私は「一方で」を多用しています。「一方」の使い方は、文脈によって

※「二つの事柄を対比させる(～する反面)」

※「二つのことを同時に行う(～するのと同時に)」など、複数の意味があります。

私は、よく前者の使い方をします。

授業参観について (令和7年10月2日～3日)

1日目は308名、2日目は289名 計597名の御家族の参加。子供達の様子に、心配そうに見守ったり、笑顔で参観したりと大盛況の二日間でした。お忙しい中來校していただき感謝します。

一方で、想定以上の來校で、特別教室の授業の参観がしにくくかったり、第二グラウンドの通用門等が開いていたりという問題があがりました。特に不審者対策が問われている中、防犯上の問題は看過できません。3学期の授業参観は、2日間の授業参観を基本としながら、参観する人数の軽減や受付場所の変更を考えていきます。

また虹輝祭において、昨年度まで「第二体育館での児童・生徒の展示」でしたが、今年度より、肢体不自由部門棟の廊下での展示となります。第二体育館は「パラスポーツ・レクリエーションスポーツの体験(江戸川区共催)」の場所となることから、第二体育館の受付をなくし、受付(出入りの場所)を狭めていく予定です。(詳細は後日伝えます)

近隣説明会について (令和7年10月16日)

近隣の皆様に、「緊急的増築棟の建設計画」について説明をしました。第一回目は、増築棟の概要と増築棟完成までの計画(予定。変更の可能性もあります:別紙参照)について東京都教育委員会より説明をしました。質疑応答では、「建設の際の振動」「工事車両と放課後等デイサービスの送迎車による道路の渋滞」「グラウンドの砂」の心配の声がありましたが、【増築棟を建設反対】の御意見はありませんでした。東京都教育委員会の方が驚いていましたが、「工事が始まったら、子供達の安全確保の為に先生方だけではなく警備員をつけた方が良い」「増築棟を建設しても子供達の運動の保証はしてください」等の子供達をおもんばかる発言が多かったです。PTAの皆さんや教職員が、地域との連携・交流の積み重ねが、学校への「信用」「信頼」につながったと考えます。

一方で、最近の放課後デイの送迎車等についての指摘がありました。

- ① 4m幅で狭い道路をスピード落とさずに通行する送迎車が多く、多く小学校に通う子供達や高齢者が不安を感じている。(図参照)
 - ② セブンイレブンの駐車するのは違うと思うが、注意はできない。
 - ③ 農園に駐車する送迎車の扉の開閉等のマナーで気になる時がある。
- また、保護者の送迎車の路上駐車等の話もありました。

★放課後等デイサービスをご契約されている保護者の皆様、放課後等デイサービスの事業所の皆様にお伝えします。近隣住民の安全や生活に支障が生じ、「信用」「信頼」を損なわれる状況が継続する場合は、学校として対策をする必要があります。もちろん、学校の一方的な話にはならないよう、放課後等デイサービスの理事の方々とも話し合っていきたいです。近隣の皆様と良好な関係を保つためにも、御理解と御協力をお願い申し上げます。



鹿本学園校長 堀江 浩子

地域・関係諸機関と連携した 防災訓練をふりかえって

9月12日（金）、両部門中学部1年生が、地域・関係諸機関と連携した防災訓練を行いました。

【S部門 中学部】

全校での避難訓練後、体験学習を中心とした防災訓練を行いました。煙が充満し前後左右が分からない煙ハウスを通り抜けたり、プライバシー空間を守る防災テントに入ってみたりと、災害時の疑似体験をし、防災について考える機会をもつことができました。水消火器を向けて的に当てる初期消火訓練も行いました。119番で消防署に連絡すること、炎の高さが自分の身長を超えたら、消火するより逃げること等、命を守る行動が一番大切であることも学びました。

S部門 中学部 宿泊防災訓練担当 井上 由里子



蓄電体験



防災テント体験



煙ハウス



初期消火訓練

【N部門 中学部】

教室で避難訓練をした後、第一体育館に移動し、防災テント体験、蓄電体験、心肺蘇生訓練（生徒は見学）、消火訓練、煙ハウス体験の訓練を、生徒、PTA、地域住民の方で行いました。昼食は、非常食のカレーをブルーシートに座って食べました。

今年度の引き取り訓練では保護者の方、緊急連絡先カードに登録のある方、R7年度登下校送迎者カードをお持ちの方にお迎えに来ていただきました。

生徒たちは訓練を経て、万が一学校で被災してしまったときの避難所生活のイメージを具体的にもつことができたと感じております。日々、防災の意識を高くもち、学校生活を過ごしていきたいと思います。

N部門 中学部 宿泊防災訓練担当 丹保 友貴子



蓄電体験



初期消火訓練



防災テント体験